

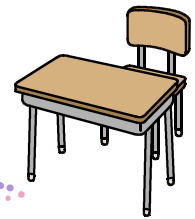


新型コロナウイルス感染症拡大後の
こどもたちの健康状況

2023年調査実施

2022年度「学校健診後治療調査」

報告書



長崎県保険医協会

長崎県保険医協会

2023年「学校健診後治療調査」結果

【実施期間】2023年1月20日～2月20日

【対象期間】2022年度

【対象】長崎県内の小・中・高校、特別支援学校610校。

【方法】アンケート用紙（A4版1枚）を郵送し、FAXまたは郵送で返信。

【回答数】167校（小学校90校、中学校47校、高校22校、特別支援学校8校）。

【回答率】27.4%。

【対象数及び回答数・回答率】

	対象数	回答数	回答率		対象数	回答数	回答率
小学校	323	90	27.9%	公立小学校	317	86	27.1%
				私立小学校	6	4	66.7%
中学校	182	47	25.8%	公立小学校	170	43	25.3%
				私立小学校	12	4	33.3%
高校	80	22	27.5%	公立小学校	57	19	33.3%
				私立小学校	23	3	13.0%
特別支援学校	25	8	32.0%				
全体の合計	610	167	27.4%				

参考) 2021年実施調査

【実施期間】2021年2月10日～3月15日

【対象期間】2020年度

【対象】長崎県内の小・中・高校、特別支援学校617校。

【方法】アンケート用紙（A4版1枚）を郵送し、FAXまたは郵送で返信。

【回答数】257校（小学校130校、中学校82校、高校33校、特別支援学校12校）。

【回答率】41.7%。

参考) 2018年実施調査

【実施期間】2018年9月14日～9月30日

【対象期間】2017年度

【対象】長崎県内の小・中・高校、特別支援学校622校。

【方法】アンケート用紙（A4版1枚）を郵送し、FAXまたは郵送で返信。

【回答数】181校（小学校101校、中学校40校、高校22校、特別支援学校18校）。

【回答率】29.1%。

歯科健診

1. 「健診を受けた人数」と、その内「要受診と診断された人数」、要受診と診断され医療機関を受診した人数」

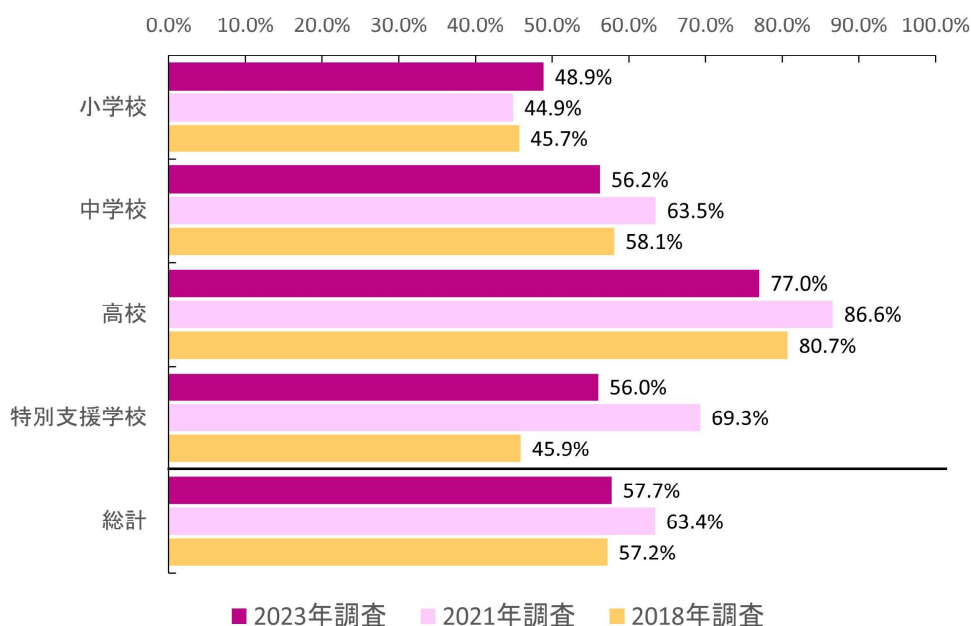
歯科健診	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診者数	受診率	未受診率
小学校	11,615	4,617	39.8%	2,360	2,257	51.1%	48.9%
中学校	8,568	2,936	34.3%	1,285	1,651	43.8%	56.2%
高校	7,142	2,365	33.1%	544	1,821	23.0%	77.0%
特別支援学校	378	125	33.1%	55	70	44.0%	56.0%
総計	27,703	10,043	36.3%	4,244	5,799	42.3%	57.7%

※「受診率」＝「受診数」÷「要受診数」

※「未受診率」＝「未受診者数」÷「要受診数」

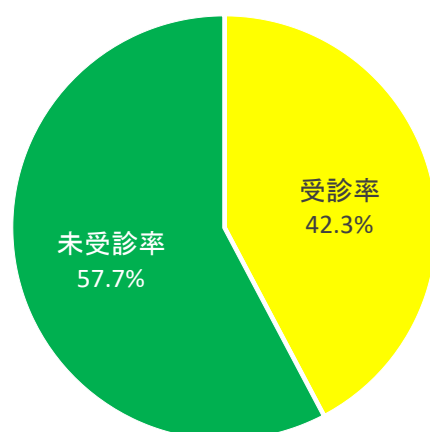
※「要受診数」には、むし歯及び歯周病、むし歯予備軍、歯並び・咬み合わせの悪い児童・生徒を含みます

歯科健診「要受診者」の医療機関未受診率の比較



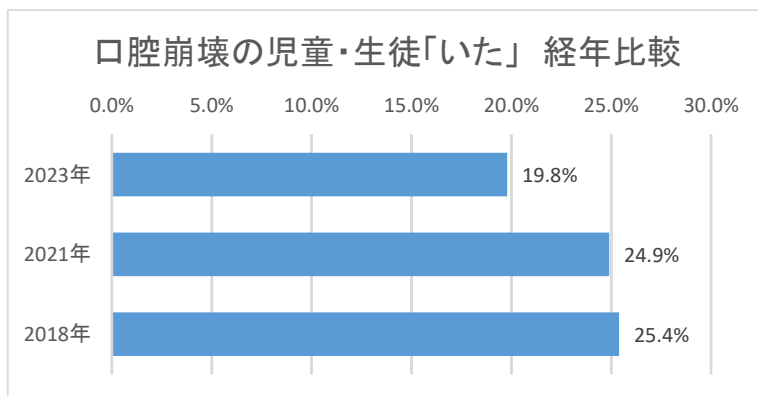
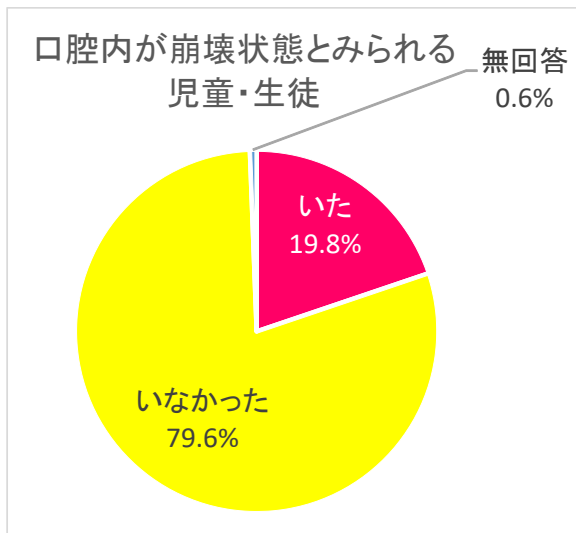
★歯科健診を受けた児童・生徒のうち、36.3%（前回は36.5%）が「要受診」と診断されたが、そのうち57.7%が「未受診」で、未受診率が前回調査（63.4%）より5.7%減少した。校種別でみると、特別支援学校の「未受診率」が昨年より13.3%と大きく減少した。

歯科健診「要受診者」の受診率



2. 口腔内が崩壊状態（むし歯（未処置歯）が10本以上ある、歯の根しか残っていないような未処置歯が何本もあるなど、咀嚼が困難な状態）と見られる児童・生徒がいましたか。

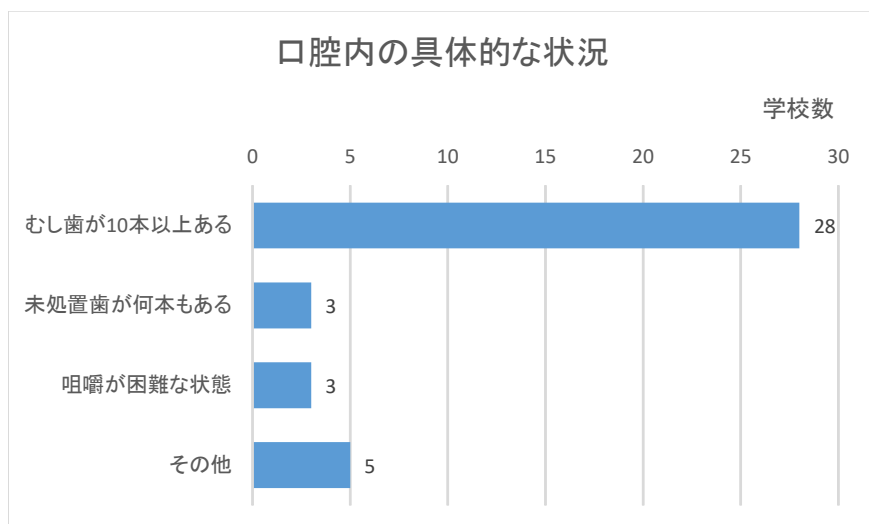
	回答学校数	いた			いなかった		無回答	
		学校数	%	人数	学校数	%	学校数	%
小学校	90	17	18.9%	26	72	80.0%	1	1.1%
中学校	47	5	10.6%	16	42	89.4%	0	0.0%
高校	22	9	40.9%	16	13	59.1%	0	0.0%
特別支援学校	8	2	25.0%	5	6	75.0%	0	0.0%
総計	167	33	19.8%	63	133	79.6%	1	0.6%



★口腔崩壊とみられる児童・生徒が「いた」と回答した学校は、33校（19.8%）で、前回の24.9%から5.1%減少した。

※「口腔崩壊」の子の状態（複数回答可）

	回答学校数	むし歯が10本以上ある	未処置が何本もある	咀嚼が困難な状態	その他
		学校数	学校数	学校数	学校数
小学校	17	15	2	1	1
中学校	5	4	1	0	1
高校	9	7	0	1	2
特別支援学校	2	2	0	1	1
総計	33	28	3	3	5



※その他の具体的記載

- ・給食を食べることに時間がかかる。（小学校）
- ・9本は3人（小学校）
- ・歯牙欠損症（遺伝的）治療中（高校）
- ・欠損歯10本以上（高校）

●口腔崩壊の具体的なケース

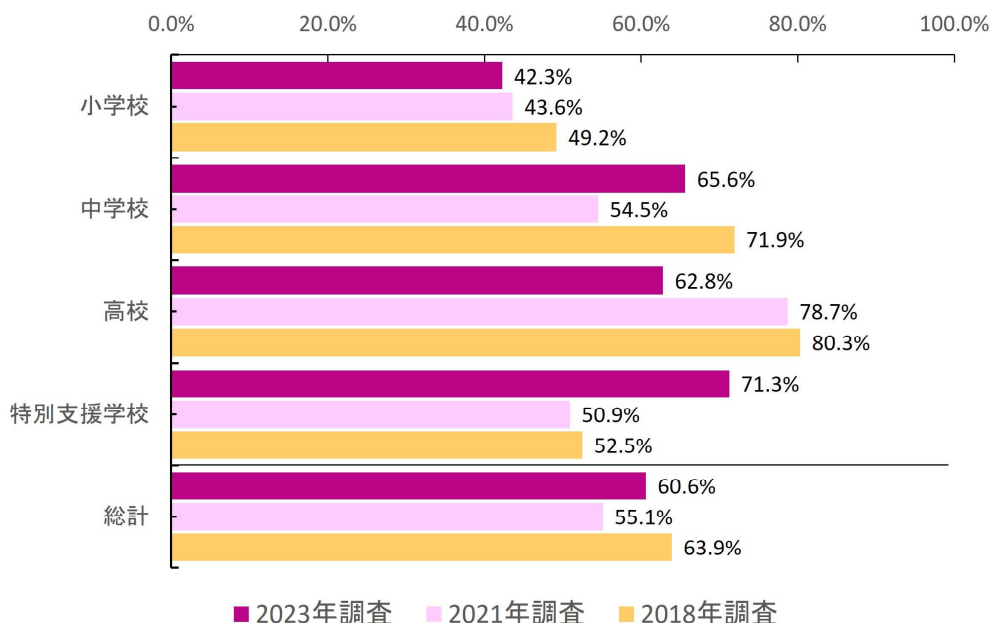
- ・乳歯6本、永久歯2本が虫歯。食生活の乱れにより、給食時間の食欲がないことも原因としてあげられていたが、虫歯の痛み、食が進まない時期もあった。(小学校)
- ・11本(小学校)。
- ・乳歯のう歯が12本あった。(小学校)
- ・小1、女、歯科検診の時点で、乳歯14本、永久歯9本。乳歯には12本のむし歯有。(小学校)
- ・歯科校医より口腔崩壊状態に近いと言われた。現3年生だが1年次よりむし歯があったが未受診。今年度やっと受診してもらえた。(中学校)
- ・歯並びが咀嚼できる状況ではないが保護者は内臓疾患のため、食物が食べれないと思われ、何度となく受診を促すが効果なし。(高校)
- ・高校入学前から欠損歯が10本以上あり、受診勧告を行っているが受診にはつながっていない。(高校)
- ・むし歯が多く、歯列・咬合も要受診で、口腔内の衛生状態が悪い(特別支援)
- ・咀嚼時に痛みがあり、口臭も強くほとんど溶けた乳歯が残存している。(特別支援)

眼科健診・視力検査

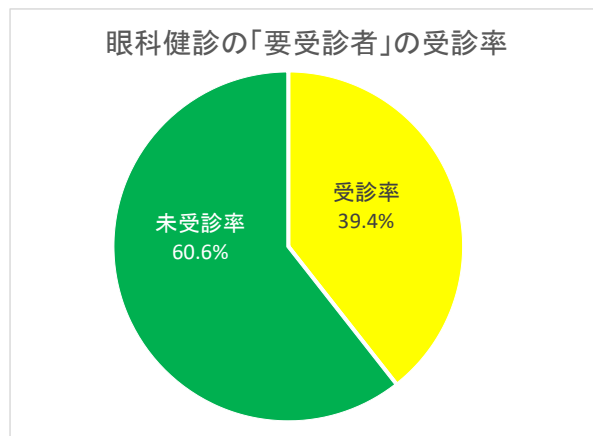
1. 「眼科健診を受けた人数」と、その内「要受診と診断された人数」、「要受診と診断され医療機関を受診した人数」

眼科健診	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診者数	受診率	未受診率
小学校	2,798	97	3.5%	56	41	57.7%	42.3%
中学校	3,049	128	4.2%	44	84	34.4%	65.6%
高校	2,218	129	5.8%	48	81	37.2%	62.8%
特別支援学校	277	80	28.9%	23	57	28.8%	71.3%
総計	8,342	434	5.2%	171	263	39.4%	60.6%

眼科健診「要受診者」の医療機関未受診率の比較

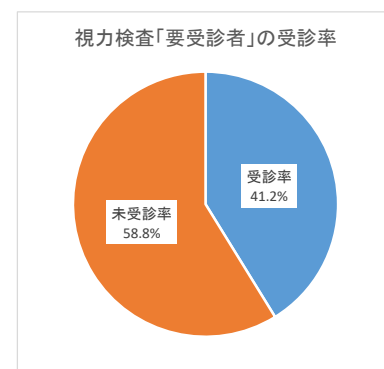
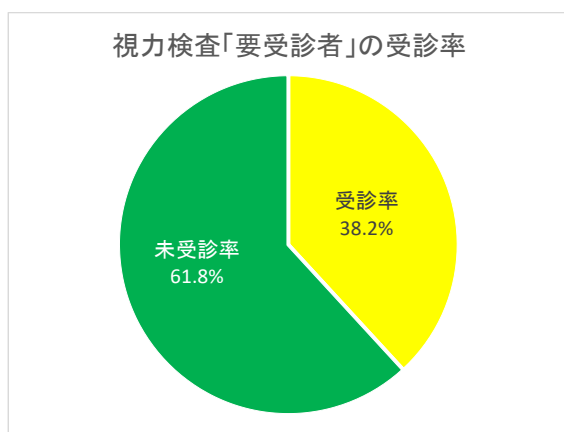


★眼科健診を受けた児童・生徒のうち、5.2%（今回は3.8%）が「要受診」と診断されたが、そのうち60.6%が「未受診」で、未受診率が前回調査（55.1%）より5.5%増加した。校種別でみると、特別支援学校の「未受診率」が昨年より20.4%大きく増加した。



2. 「視力検査を受けた人数」と、その内「要受診と診断された人数」、「要受診と診断され医療機関を受診した人数」

視力検査	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診者数	受診率	未受診率
小学校	11,673	3,634	31.1%	1,791	1,843	49.3%	50.7%
中学校	9,151	3,696	40.4%	1,266	2,430	34.3%	65.7%
高校	7,181	2,516	35.0%	708	1,808	28.1%	71.9%
特別支援学校	395	94	23.8%	29	65	30.9%	69.1%
総計	28,400	9,940	35.0%	3,794	6,146	38.2%	61.8%



2021年調査

★視力検査を受けた児童・生徒のうち、35.0%が「要受診」と診断された。そのうち、未受診であった児童・生徒は61.8%で、前回調査（58.8%）より3%増加した。

3. 眼科健診・視力検査で「要受診」と判定されたにも関わらず、「未受診」の児童・生徒の学校での困難事例はありましたか。

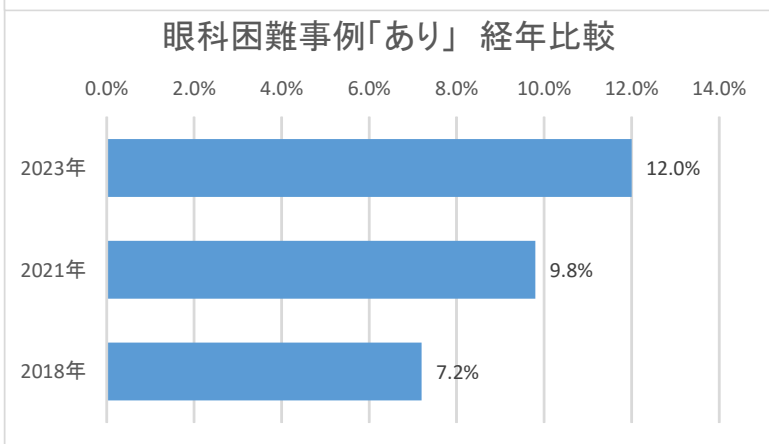
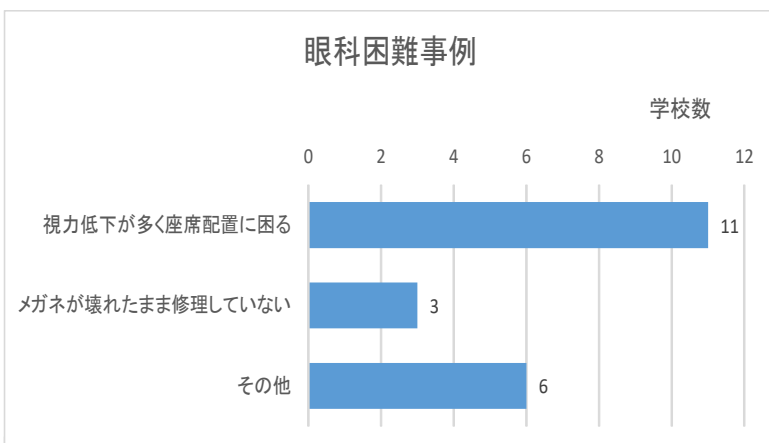
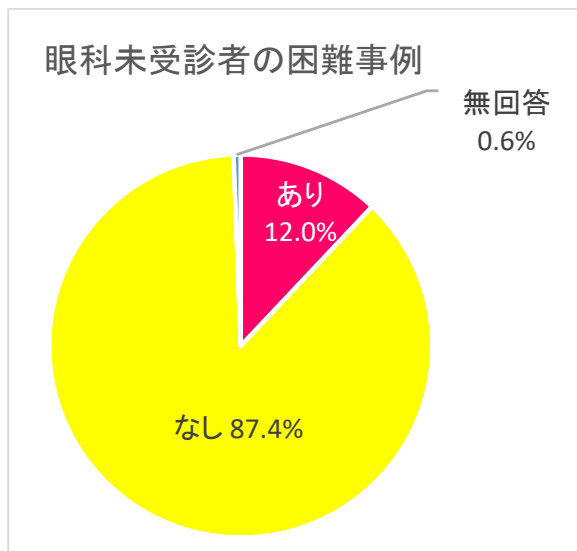
	回答学校数	あり			なし		無回答	
		学校数	%	人数	学校数	%	学校数	%
小学校	90	11	12.2%	92	79	87.8%	0	0.0%
中学校	47	6	12.8%	7	40	85.1%	1	2.1%
高校	22	2	9.1%	1	20	90.9%	0	0.0%
特別支援学校	8	1	12.5%	0	7	87.5%	0	0.0%
総計	167	20	12.0%	100	146	87.4%	1	0.6%

※眼科未受診の児童・生徒の困難事例（複数回答可）

	回答学校数	視力低下が多く 座席配置に困る	メガネが壊れたまま 修理していない	その他
		学校数	学校数	学校数
小学校	11	8	1	3
中学校	6	3	2	1
高校	2	0	0	1
特別支援学校	1	0	0	1
総計	20	11	3	6

※その他の具体的記載

- ・受診のお知らせを再発行したが、未受診。（小学校）
- ・経済的理由により、合わなくなった眼鏡をかえられない。（高校）



★眼科の困難事例が「あり」と回答したのは20校（12.0%）で、前回調査（9.8%）より2.2%増えている。経年比較では、年々増加傾向にある。

●眼科未受診の具体的な困難事例

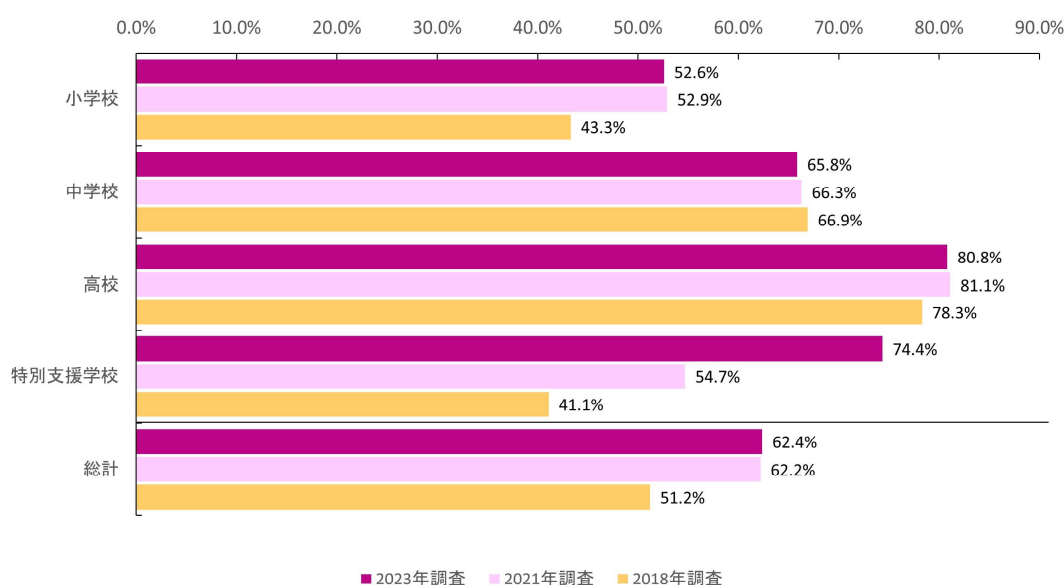
- ・学習の困り感が保護者に伝わらない。（小学校）
- ・眼鏡が必要だが、1年以上眼鏡を作っておらず、視力低下がみられる。（小学校）
- ・クラスによって多いクラスもある。メディア使用を長時間している子は良くない傾向にある。（小学校）
- ・本校では1学期と2学期の2回、視力検査を行っている。B以下であればその度に結果の報告と受診のお願いをしている。再三、受診報告書の提出をお願いしているが、約4割しか提出していない。明らかに眼鏡の調整が必要な児童であっても受診をしていない状態である。（小学校）
- ・眼科を受診せず、眼鏡屋さんのみ行き、眼鏡を作ったため、受診者数にはカウントできなかった。（小学校）
- ・視力低下が分かって1～2年経つのに、いまだに受診してくれない。何度も促すが効果なし。（中学校）
- ・受診を何度か促しているが、なかなか受診しない。（中学校）
- ・視力低下があっても、「席から黒板が見えるからいい」等の理由で受診しない。（中学校）
- ・直接めがね店へ行くこともある。（中学校）
- ・町内に眼科がなく、両親の仕事の都合上、受診が滞る。（中学校）
- ・視力低下（屈折異常）のため、要受診となっていますが、専門医へ受診するより、コンタクトの調整かメガネの調整が多かった。（高校）
- ・困難とまではいきませんが、「コンタクトレンズをネットで多めに購入しているのでも、コンタクトの度数が合わなくなっても、まだ在庫がある」と言われたことはあります。（高校）
- ・眼瞼下垂に加えて視力低下も進み、眼科受診をしてはいるが生徒自身が治療の受け入れが難しい。家庭でのゲームをする時間が長く、十分な睡眠時間を確保できておらず、眼精疲労が起因した日中の頭痛の訴えが頻回であると考えられる。（特別支援）
- ・受診や検査が困難なため、視力を把握することが難しい。斜視や眼振は受診率が高い。（特別支援）

耳鼻科健診・聴力検査

1. 「耳鼻科健診を受けた人数」と、その内「要受診と診断された人数」、「要受診と診断され医療機関を受診した人数」

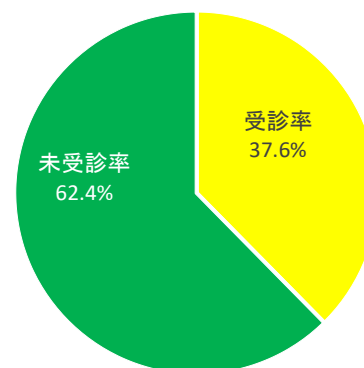
耳鼻科健診	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診者数	受診率	未受診率
小学校	4,391	618	14.1%	293	325	47.4%	52.6%
中学校	3,539	281	7.9%	96	185	34.2%	65.8%
高校	2,228	250	11.2%	48	202	19.2%	80.8%
特別支援学校	364	39	10.7%	10	29	25.6%	74.4%
総計	10,522	1,188	11.3%	447	741	37.6%	62.4%

耳鼻科健診「要受診者」の医療機関未受診率の比較



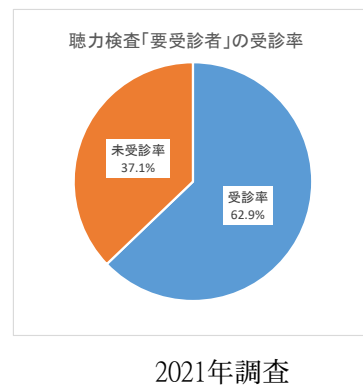
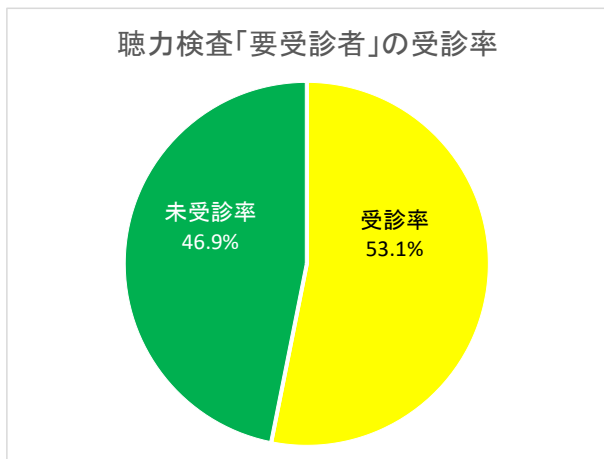
★耳鼻科健診を受けた児童・生徒のうち、要受診と診断されたにもかかわらず、未受診であった児童・生徒は62.4%で、前回調査(62.2%)とほぼ同じである。校種別でみると、「特別支援学校」が昨年より19.7%増加している。

耳鼻科健診「要受診者」の受診率



2. 「聴力検査を受けた人数」と、その内「要受診と診断された人数」、「要受診と診断され医療機関を受診した人数」

聴力検査	検査受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診者数	受診率	未受診率
小学校	8,099	125	1.5%	86	39	68.8%	31.2%
中学校	7,149	197	2.8%	81	116	41.1%	58.9%
高校	5,122	33	0.6%	23	10	69.7%	30.3%
特別支援学校	370	12	3.2%	5	7	41.7%	58.3%
総計	20,740	367	1.8%	195	172	53.1%	46.9%



★聴力検査を受けた児童・生徒のうち、要受診と診断されたにもかかわらず、未受診であった児童・生徒は46.9%で、前回調査より9.8%増加している。

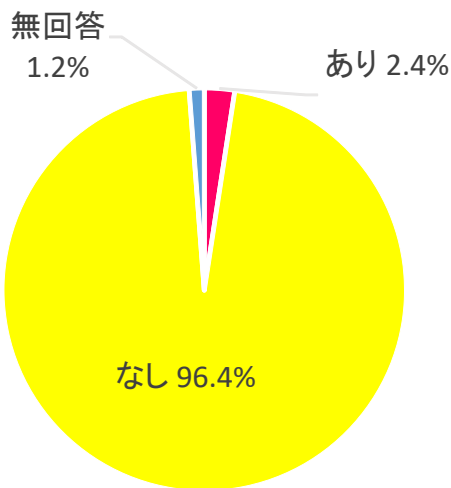
3. 耳鼻科健診・聴力検査で「要受診」と判定されたにも関わらず、「未受診」の児童・生徒の学校での困難事例がありましたか。

	回答学校数	あり			なし		無回答	
		学校数	%	人数	学校数	%	学校数	%
小学校	90	1	1.1%	0	88	97.8%	1	1.1%
中学校	47	1	2.1%	1	45	95.7%	1	2.1%
高校	22	0	0.0%	0	22	100.0%	0	0.0%
特別支援学校	8	2	25.0%	1	6	75.0%	0	0.0%
総計	167	4	2.4%	2	161	96.4%	2	1.2%

※耳鼻科未受診の児童・生徒の困難事例（複数回答可）

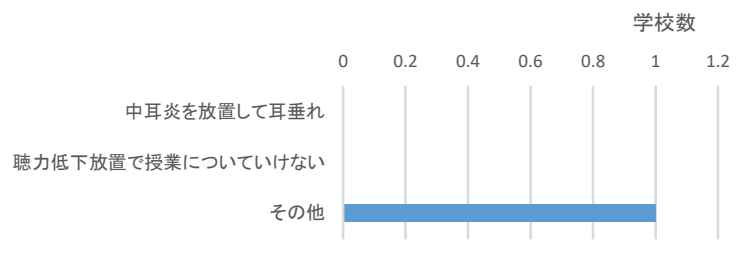
	回答学校数	中耳炎を放置して耳垂れ	聴力低下放置で授業についていけない	その他
		学校数	学校数	学校数
小学校	1	0	0	0
中学校	1	0	0	0
高校	0	0	0	0
特別支援学校	2	0	0	1
総計	4	0	0	1

耳鼻科未受診者の困難事例



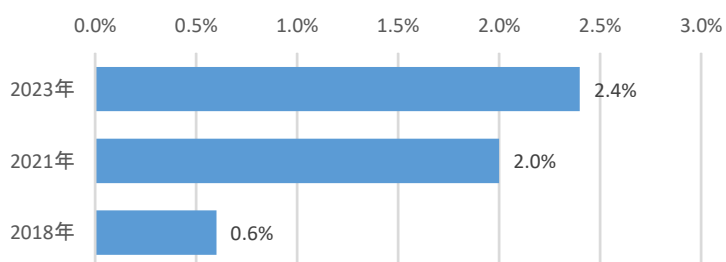
★耳鼻科の困難事例が「あり」と回答したのは4校(2.4%)で、前回調査(2.0%)とほぼ同じである。経年比較では、件数は少ないながらも、年々増加傾向にある。

耳鼻科困難事例



※その他の具体的記載
なし

耳鼻科困難事例「あり」 経年比較



●耳鼻科未受診の具体的な困難事例

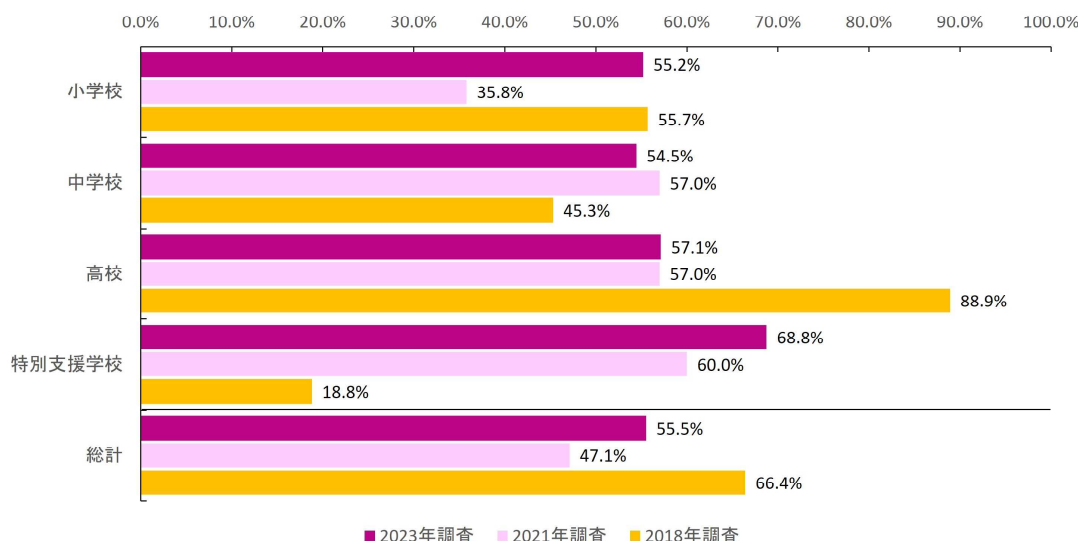
- ・受診をうながしてもスルーしていく家庭がある(忙しくてつれていけない?) (小学校)
- ・耳垢栓塞は“親が耳そうじすればいいでしょ”と言われた。奥が見えてないから何らかの疾患が隠れている可能性がありますと伝えても受診されなかった。(中学校)
- ・受診や検査が困難なため、聴力の把握が難しい。(特別支援)
- ・毎年、耳垢栓塞で要受診となるが、自宅で耳垢が取れたと受診しない。(特別支援)

内科健診

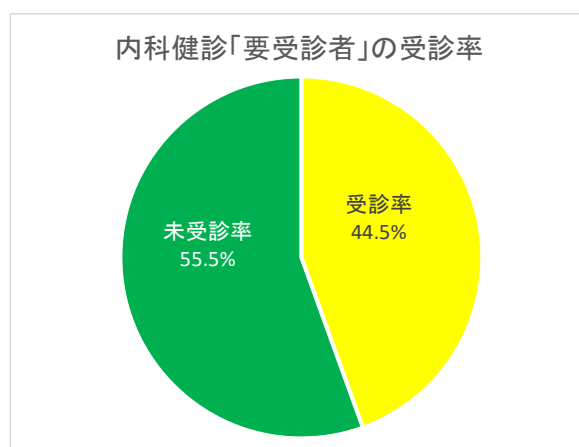
1. 「内科健診を受けた人数」とその内「要受診と診断された人数」、「要受診と診断され医療機関を受診した人数」

内科健診	健診受診数	要受診数	要受診率	受診者数	未受診者数	受診率	未受診率
小学校	11,640	404	3.5%	181	223	44.8%	55.2%
中学校	8,516	191	2.2%	87	104	45.5%	54.5%
高校	7,159	77	1.1%	33	44	42.9%	57.1%
特別支援学校	380	16	4.2%	5	11	31.3%	68.8%
総計	27,695	688	2.5%	306	382	44.5%	55.5%

内科健診「要受診者」の医療機関未受診率の比較



★内科健診を受けた児童・生徒のうち、要受診と診断されたにもかかわらず、未受診であった児童・生徒は55.5%で、前回調査(47.1%)より8.4%増加している。校種別でみると、「小学校」(55.2%)が前回調査(47.1%)より19.4%増加している。

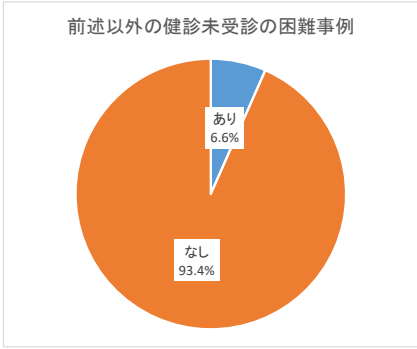
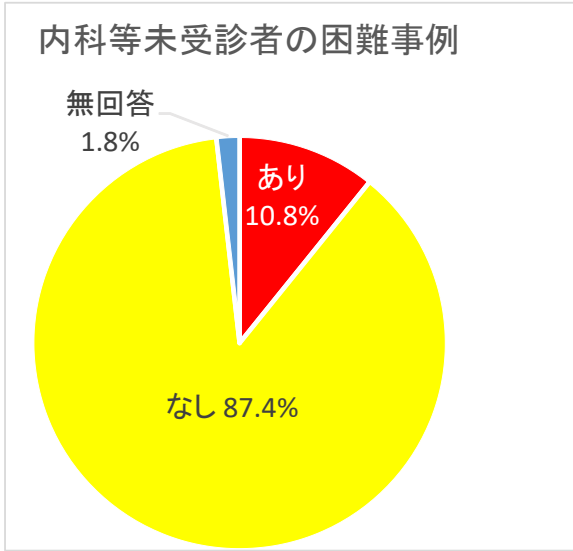


2. 内科等の検査（心臓検査・尿検査・皮膚科項目、運動器検診などを含む）で、検査の数値等から明らかに受診が必要にも関わらず、未受診の児童・生徒の困難事例がありましたか。

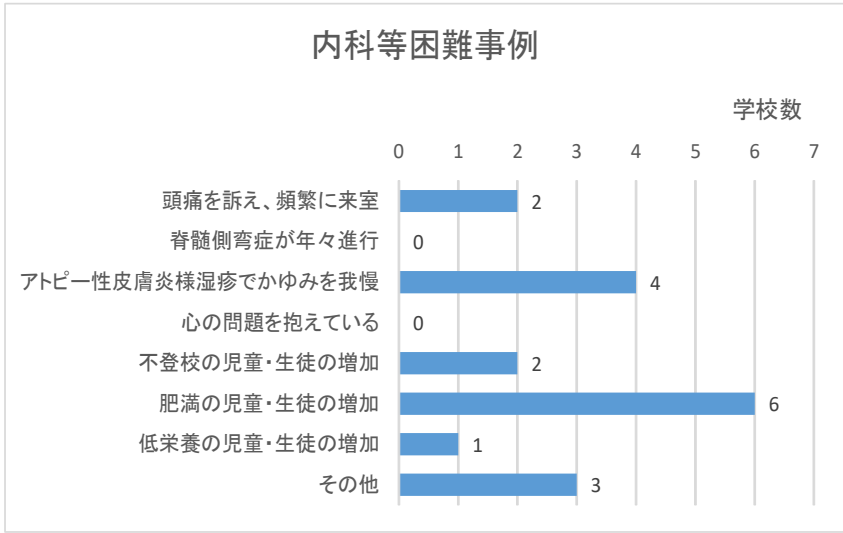
	回答学校数	あり			なし		無回答	
		学校数	%	人数	学校数	%	学校数	%
小学校	90	9	10.0%	17	80	88.9%	1	1.1%
中学校	47	6	12.8%	19	40	85.1%	1	2.1%
高校	22	0	0.0%	0	21	95.5%	1	4.5%
特別支援学校	8	3	37.5%	5	5	62.5%	0	0.0%
総計	167	18	10.8%	41	146	87.4%	3	1.8%

※未受診の児童・生徒の困難事例（複数回答可）

	回答学校数	頭痛を訴え、頻繁に来室	脊髄側弯症が年々進行	アトピー性皮膚炎様湿疹でかゆみを我慢	心の問題を抱えている	不登校の児童・生徒の増加	肥満の児童・生徒の増加	低栄養の児童・生徒の増加	その他
		学校数	学校数	学校数	学校数	学校数	学校数	学校数	学校数
小学校	10	1	0	2	0	0	4	1	2
中学校	7	1	0	2	0	2	1	0	1
高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別支援学校	1	0	0	0	0	0	1	0	0
総計	18	2	0	4	0	2	6	1	3

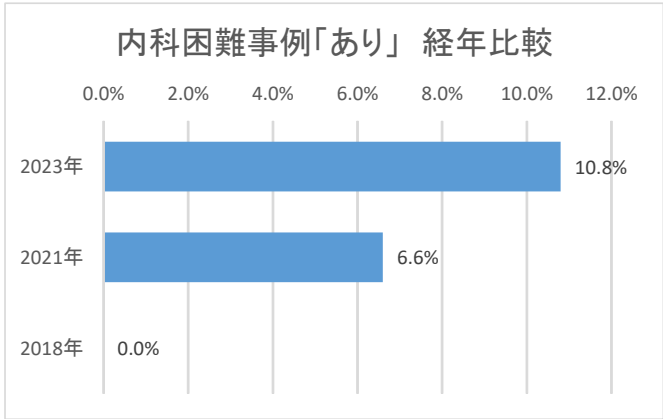


2021年調査



※その他の具体的記載

- ・アトピー性皮膚炎により、とびひになっていたが受診なし。プール等に入れず、本人はかゆみを我慢していた。何度か受診するよう勧告したが、受診なし。(小学校)
- ・ネグレクト疑いの事例で、市の子ども課と連携して保護者に対応している。また低栄養の児童・生徒の増加については、親がビーガンであり、他の児童同様体位の結果を根気強く提示しつづけている。(小学校)
- ・尿検査で毎年蛋白尿で要受診だが2年間未受診(中学校)・体重の増加が著しく、肥満を指摘されるが、保護者から生徒への食事コントロールをできず、手をあぐねている。(特別支援)



★内科の困難事例が「あり」と回答したのは18校(10.8%)で、前回調査(6.6%)より4.2%増加している。経年比較では、件数は少ないながらも、年々増加傾向にある。

●内科未受診の具体的な困難事例

- ・かなりひどい状態だが親が金欠で連れていけないと言っていると子どもが言っていた。(小学校)
- ・肥満の児童が多い。内科検診で肥満と診断されたのは5名だったが、肥満度を見ると、全校児童87名のうち、17名が肥満である。高度肥満も複数いるが、いずれも受診していない。なかには、衣服の着脱が難しかったり、同じ姿勢を保てないといった生活に影響が出ている児童もいる。(小学校)
- ・肥満度がAやBの児童には保護者へ電話連絡をして受診をお勧めしているが、危機感がうすく受診につながらない。保護者も肥満傾向であるため、指導が難しい。(小学校)
- ・高度肥満のため生活に支障あり、不登校傾向。ネット依存等あるが受診しない。(小学校)
- ・成長発育検診で受診が必要な生徒が複数いるが受診してもらえない。途中から不登校になり受診できていない。(中学校)
- ・要保護家庭で、本人・妹が不登校。母子家庭で母は無職。母が精神的に不安定のため強く受診をすすめられない。(中学校)
- ・長欠で外に出られない生徒への受診(検診)勧告しても難しい。(中学校)
- ・歩行時に内股で歩き、体を左右に揺らしながら歩くため、一度は専門医で診察を受けるよう受診を勧奨したが応じない。(特別支援)

未受診の要因

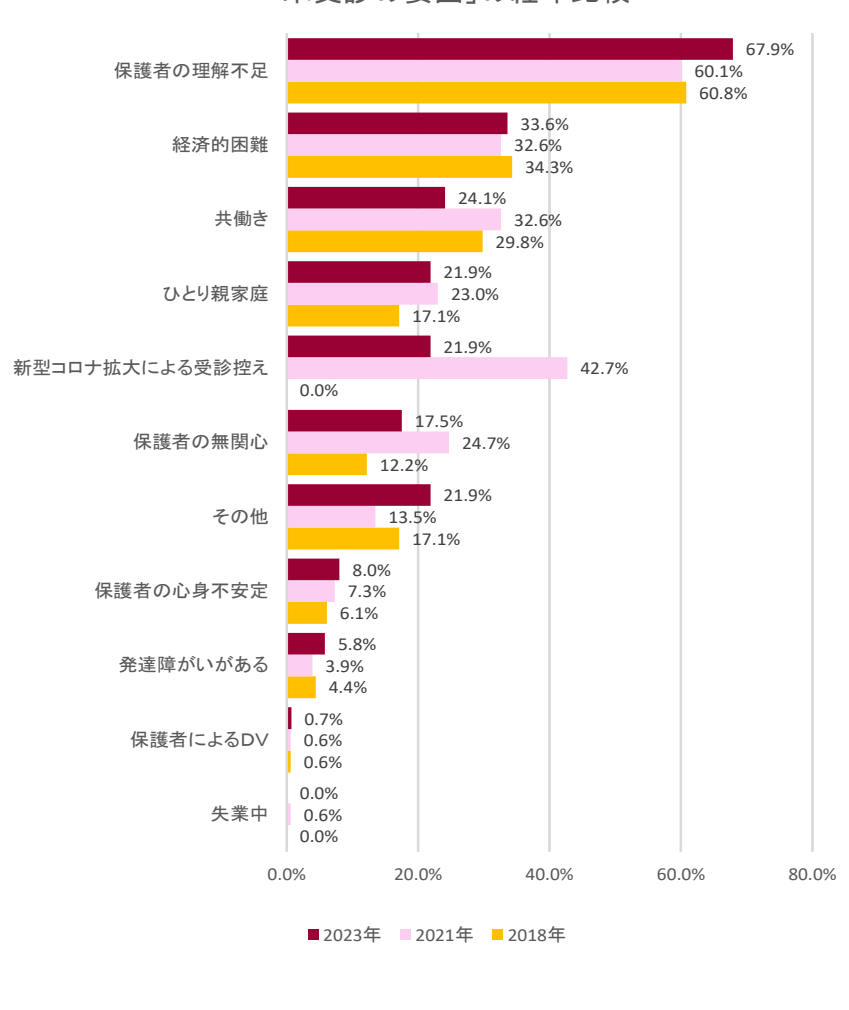
6. 未受診の要因として関連が深いと思われる家庭状況（3つまで選択）

	小学校		中学校		高校		特別支援学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
経済的困難	18	24.7%	13	35.1%	12	60.0%	3	42.9%	46	33.6%
ひとり親家庭	18	24.7%	8	21.6%	4	20.0%	0	0.0%	30	21.9%
共働き	23	31.5%	6	16.2%	3	15.0%	1	14.3%	33	24.1%
失業中	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保護者によるDV	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
保護者の無関心	14	19.2%	6	16.2%	4	20.0%	0	0.0%	24	17.5%
保護者の心身不安定	6	8.2%	5	13.5%	0	0.0%	0	0.0%	11	8.0%
保護者の理解不足	49	67.1%	25	67.6%	13	65.0%	6	85.7%	93	67.9%
発達障がいがある	3	4.1%	2	5.4%	0	0.0%	3	42.9%	8	5.8%
新型コロナ感染拡大による受診控え	15	0.0%	8	0.0%	5	0.0%	2	0.0%	30	21.9%
その他	15	20.5%	8	21.6%	5	25.0%	2	28.6%	30	21.9%

※その他の具体的記載

- ・定期通院しているため（小学校）
- ・部活や社会体育・習い事で子どもに時間がないと言われるケースも。（小学校）
- ・近くに専門の医療機関が少なく島内の総合病院または島外の医療機関を受診する家庭が多く、時間確保が難しかったり、負担が大きかったりするのではないか。（小学校）
- ・眼科が少ないため待ち時間が長い。（小学校）
- ・交通手段。（小学校）
- ・仕事を休むと所得が減るため、受診しない。（小学校）
- ・医療機関が遠い（島部のため）。（小学校）
- ・視力低下への防止、予防がとても難しい、視力低下への意識が低い。（小学校）
- ・島内（近隣）に専門医がない。（中学校）
- ・受診の必要性を感じていない。視力は親も悪いから気にしないなど。（中学校）
- ・離島地域で、眼科が島内にない。（中学校）
- ・島に対象の医療機関がなく、受診するには遠方の医療機関にかからないといけないため。（中学校）
- ・不登校。（中学校）
- ・医療機関が遠い。（中学校）
- ・保護者が発達障害？（高校）
- ・本人の健康への理解不足。（高校）
- ・生徒自身の健康意識の低さ（健康の優先順位が低い）。（高校）
- ・保護者が、受診・治療に対して積極性に欠ける。（特別支援）

「未受診の要因」の経年比較



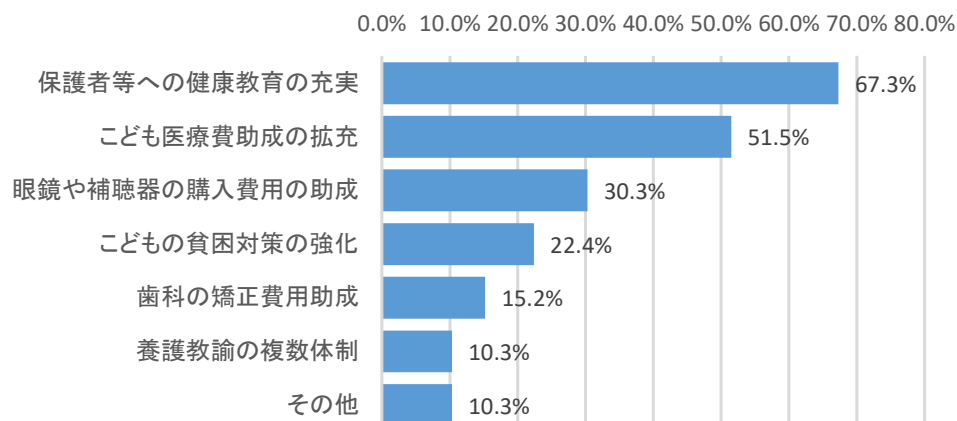
★「保護者の理解不足」(67.9%) がトップで、前回調査(60.1%)より7.8%増えている。一方「新型コロナによる受診控え」が20.8%減少している。また、「その他」が8.4%増えている。記載内容は上述の通り。

未受診対策として、行政が優先的に取り組むべき課題

7. 未受診をなくす対策として、行政側が優先的に取り組むべき課題（複数回答）。

	小学校		中学校		高校		特別支援学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
子ども医療費助成の拡充	41	46.1%	25	54.3%	15	68.2%	4	50.0%	85	51.5%
眼鏡・補聴器の購入費用の助成	26	29.2%	15	32.6%	6	27.3%	3	37.5%	50	30.3%
歯科の矯正費用助成	15	16.9%	6	13.0%	0	0.0%	4	50.0%	25	15.2%
養護教諭の複数体制	7	7.9%	5	10.9%	3	13.6%	2	25.0%	17	10.3%
保護者等への健康教育の充実	63	70.8%	32	69.6%	11	50.0%	5	62.5%	111	67.3%
子どもの貧困対策強化	21	23.6%	10	21.7%	4	18.2%	2	25.0%	37	22.4%
その他	5	5.6%	6	13.0%	4	18.2%	2	25.0%	17	10.3%

未受診対策として、 行政が優先的に取り組むべき課題



※その他の具体的記載

- ・眼科・耳鼻科・皮膚科などの専門医が少ないためいつでも受診できるようにしてほしい。(小学校)
- ・助成制度において予算面だけでなく医療につながる手段の検討。(小学校)
- ・医療機関（専門医）の充実（離島部）。(小学校)
- ・離島の専門医充実。(小学校)
- ・部活動（社会体育）に熱しすぎる保護者（休みにくい風潮？）一人親家庭余裕がない。(小学校)
- ・離島の診療科目を増やす、離島の医療を充実させる。(中学校)
- ・歯科受診を乳幼児の検診同様引きつづき実施していく。(中学校)
- ・医療機関（専門医）の充実（離島部）(中学校)
- ・う歯治療費の補助（保護家庭以外にも）(中学校)
- ・受診できる時間帯の拡充（中学校）
- ・島の医療の充実及び島外受診時の交通費の助成。(高校)
- ・子どもの医療費、教育費、給食費、通学用交通費の無償化など直接子どもが受けとられるように（親にお金を給付するのではなく）。(高校)
- ・本人の健康教育の充実。(高校)
- ・障害者に対する医療機関スタッフの理解と体制の充実。(特別支援)
- ・受診の支援をしてくれる人の体制化。(特別支援)

★「保護者等への健康教育の充実」を望む意見が最多（67.3%）で、未受診の要因が「保護者の理解不足」としてトップであったことを裏付けた。また「子ども医療費助成の拡充」（51.5%）、「眼鏡や補聴器の購入費用の助成」（30.3%）と経済的支援を求める声が続いた。

新型コロナによる影響事例

8. 新型コロナウイルス感染症拡大による影響事例がありましたか。

	回答学校数	あり			なし	
		学校数	%	人数	学校数	%
小学校	88	20	22.7%	33	68	77.3%
中学校	45	11	24.4%	57	34	75.6%
高校	22	4	18.2%	262	18	81.8%
特別支援学校	8	0	0.0%	0	8	100.0%
総計	163	35	21.5%	352	128	78.5%

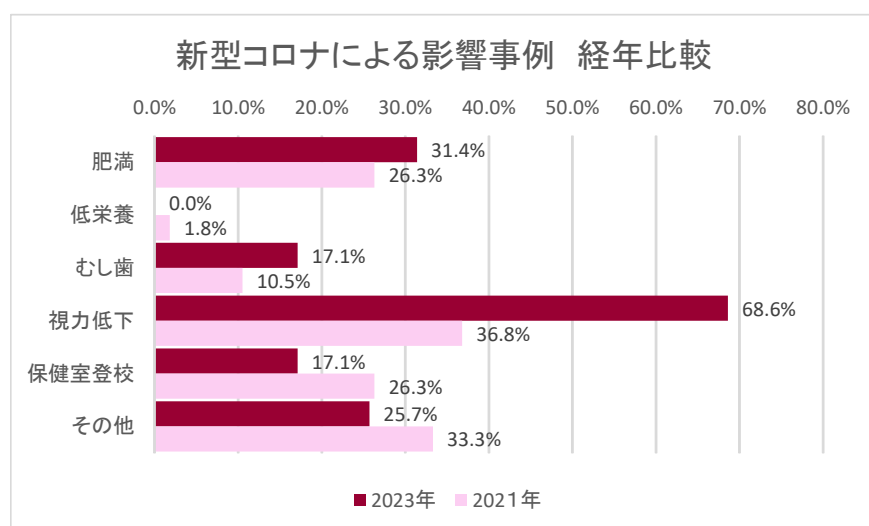
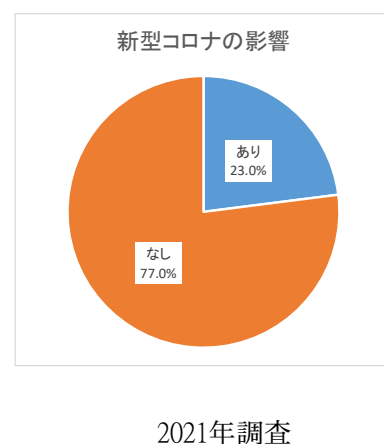
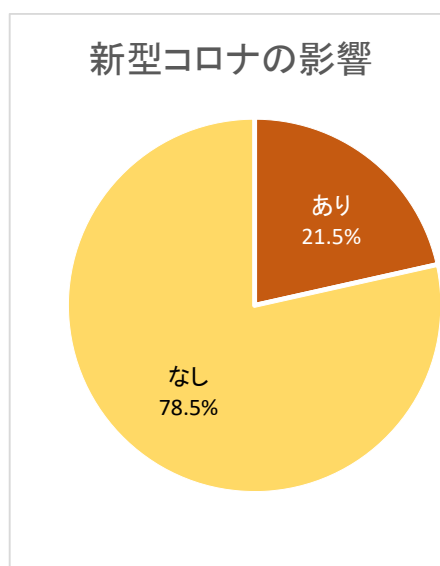
※「あり」の場合は、下記から選択してください（複数回答可）

	回答学校数	肥満		低栄養		むし歯		視力低下		保健室登校		その他	
		学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
小学校	20	7	35.0%	0	0.0%	4	20.0%	13	65.0%	2	10.0%	3	15.0%
中学校	11	4	36.4%	0	0.0%	2	18.2%	8	72.7%	3	27.3%	5	45.5%
高校	4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%	1	25.0%	1	25.0%
特別支援学校	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	35	11	31.4%	0	0.0%	6	17.1%	24	68.6%	6	17.1%	9	25.7%

※その他の具体的記載

- ・出席停止等が多く検診がスムーズに進まない。(小学校)
- ・不登校。(小学校)
- ・不登校。(中学校)
- ・不登校生徒の増加(中学校)
- ・出席停止者の急増(高校)
- ・虚弱な児童が増えた(怪我・病気をしやすい)(小学校)
- ・メディア依存(小学校)
- ・以前から肥満傾向(小学校)
- ・生活リズムの乱れ、受診控え(中学校)
- ・新型コロナウイルス感染症関連で長期出席停止のあと、学校生活に戻るのに生活リズムが崩れてしまったケースがあった。(出席停止期間中ゲームやネットフリックスのアニメ視聴にはまってしまった。)(中学校)
- ・運動嫌いが増加、メディア使用時間が長い、メンタルが弱い生徒が増加(中学校)
- ・学年が下がるにつれ体力不足を感じる(コロナだけとは限りませんが)(中学校)

★新型コロナの影響が「あり」(21.5%)は前回調査(23.0%)より1.5%減った。影響事例の中では、「視力低下」(68.6%)が前回調査(36.8%)よりも31.8%大幅に増加した。



医師や歯科医師に対する要望

9. 医師や歯科医師に対する要望等

プライバシーや特性に配慮を

- ・学校現場では健康診断時のプライバシー保護にも留意しています。健康診断に来ていただく医師・歯科医師の先生方にはプライバシー保護のために進行が遅くなるなどのことをご理解いただければありがたいです（例：保健室に入るのは1人ずつ、児童の既往歴や所見は声に出さない・紙や番号を活用するなど）（小学校）。
- ・LGBTQの生徒が在籍する。特に内科検診ではほかの生徒にも体を見られないように配慮をしたいので、学校医の先生方もご協力いただけたらと思う。（高校）
- ・痛みが分かりにくい生徒、症状がうまく伝えられない生徒、診察・検査が苦手な生徒など、障害が受診のハードルを上げていることは確かです。スタッフの方の対応、生徒に合わせた診察・検査に配慮いただけると心強いです。（特別支援）

離島など立地条件による健診の不十分さ

- ・平戸は内科以外眼科・耳鼻科の専門医による検診がありません。市町村により違いがあります。県内同じように予算があって実施できるといいのですが…。（小学校）
- ・眼科医による検診がありません。各校で眼科医検診があるとよい。（小学校）
- ・五島市には眼科が2件しかなく、眼科検診がありません。視力低下に加えてスマホ斜視などの問題も増えていると思いますので、眼科医の派遣などをお願いさせて頂き、眼科検診を実施できるようになると嬉しいです。（中学校）
- ・学校医は内科が専門で眼科検診や耳鼻科検診を受ける機会がない。（小学校）
- ・離島から通院できるような対策（シャトルバスの運用など）（中学校）

健康診断への要望

- ・校医の方ではない方が一時的に内科検診のみ診られるため、短時間で終わってしまう（小学校）。
- ・内科検診 眼科検診、耳鼻科検診を兼ねていたり、成長曲線が気になる児童が多くいたりするので、内科検診の際に診ていただけるとありがたいです。（小学校）
- ・医師が学校に深く関わってくださっていることに感謝です。運動器検診に理学療法士を派遣して下さって、受診勧告がしやすくなりました。そのようなシステム作りをぜひお願いします。（小学校）
- ・育児放棄とまではなっていないが『本人の意志を尊重する』として1度も学校へ登校したことのない生徒が数人います。このような生徒に対して定期健康診断を実施できていない（できたのは、尿検査くらい…）状況を訪問看護等と連携するなど対応可能でしょうか。（中学校）
- ・学校検診の報告（受診、検査）の文書料は無料にしてほしいです（あまり料金をとられたと聞いたことはありませんが…。）（高校）

歯科健診について

- ・感染症が拡大している中での歯科検診で、持参された1本の歯鏡を使い回された。（学校の歯鏡を準備はしていました。）毎年です。これだけ感染症が流行しているので対策についてもう少し考えてほしい。また、毎年帯同の歯科衛生士さんを連れて来られない。近隣の養護教諭に来てもらっているが、様々な検診や行事がある中、予定が合わないこともあるので困る。（小学校）

診断結果の判定や指導、対応など

- ・要受診か要観察でいいのかははっきり言ってもらえると助かります。気になるようだったらとかひどくなるようだったらとか確認しないと判断できないことがあり、該当生徒の前で確認づらいこともあります。（高校）
- ・毎年、成長曲線及び肥満度曲線を作成し、内科検診時に診ていただいておりますが、校医によって判断に差が出ているようです。小児科医が少ない地域でもありますので、心臓検診と同様に判定委員会の設置を希望します。（小学校）
- ・学校検診において、受診勧奨が絶対に必要なライン（疾病）を示していただくと勧めやすい。（高校）
- ・成長曲線やそれに関する肥満指導など養護教諭では十分にできない点についても、ご指導いただきたいです。（小学校）
- ・高度肥満の児童への指導・助言をお願いしたい。（小学校）
- ・視力（B以下）で眼科を受診した時、医師によって視力回復の訓練をされるところと何もされないところがあ

- る。(小学校)
- ・とても丁寧に生徒に対応してもらっており、有難いです。(高校)

その他（感想や事例）

10、本調査の感想、その他の事例等

地理的条件

- ・眼科・耳鼻科・皮膚科のある医療機関が、島内に1ヶ所のみ。それも週に数回（時間も短い）しか診療をしていないため、待ち時間がとても長く、なかなか受診できない。学校としても、受診をすすめるににくい状況がある。視力については、島外の医療機関を受診する児童も増えてきた。(小学校)
- ・本校は、島部に位置しており、小児科や皮膚科へ行くのに車で30分かかるところもあり、交通の便が便利とは言えない。気軽に受診できるよう、診療所に専門の医師が巡回されたり、子どもの医療費の助成、無料化があればなどと思うこともある。また、経済的困難の家庭には、強く勧告することができない…。(小学校)
- ・受診への優先順位が低いため、いつも後回しになっています。本校は離島であるため、船で通院するのに時間もかかり、行きにくいところもあるのかと思います。(小学校)
- ・〈未受診〉立地の関係上、車がなければ受診が難しいため、高学年の児童であっても、子どもだけの受診は不可能である。そのため、保護者の時間が確保できなければ要受診者の受診につながらない。(小学校)
- ・離島への専門医の訪問診療（中学校）

受診につなげるために

- ・受診率向上の為には、予算面の助成だけでなく、受診に繋がる為の手段の検討も肝要と思う。フッ化物洗口の学校での集団実施も目的や意義があると思うが、期限付きクーポンを家庭に配布することで医療機関に繋がり、治療や予防に活かされたいと思う。(小学校)
- ・ひとり親家庭は、医療費の助成があっても、時間がないからと言って、なかなか受診に連れて行ってもらえないケースがあります。このような家庭へのアプローチは難しいです。(小学校)
- ・福祉面では医療費もカバーでき、ほとんど治療費で困っている様子は感じられない。子どものために自分の時間を使うことに優先しない保護者が一部いる(小学校)
- ・土曜日等の診察時間の拡大(小学校)

新型コロナの影響

- ・視力低下がひどいです。学校でもタブレット使用時間が増え、家でもゲーム、Youtube視聴、何か対策がないものかと思います。(小学校)
- ・新型コロナの影響が家庭内にもあっているかもしれないが、よくわからない。(中学校)
- ・これが、コロナによる影響なのかは分かりませんが、B以下（裸眼）の生徒が過去3年の中では今年度が一番多くなっているの、一応チェックしました。(高校)
- ・問8について、影響は有るが、具体的な人数を出すことが難しいです。(中学校)

不登校の児童・生徒の健康

- ・長期欠席の児童の健康診断に苦慮している。保護者に再三にわたり検診を受けに行っていただくよう連絡してもなかなか行ってもらえず、今年度も未検者がいた。また未検者の中には歯が非常に多いなど、口腔内の状態が悪い子がいるので気になる。(小学校)
- ・ネット依存による生活習慣のみだれから不登校になるケースが多い。保護者もネット依存傾向が多く、子育てよりゲーム優先という家庭の多く見られる。大人がゲームをすることが容認されつつある社会の中で育児は軽んじられている気がします。(小学校)

専門医の健診を

- ・運動器検診については校医さんの専門外ということもあり、十分な検診が行えているとは言い難い。歯科や耳鼻科のように整形外科による専門医検診が理想。(小学校)

調査実施に関して

- ・この調査は、もう少し前に配布してもらった方が協力しやすいと思います。現在、入学説明会いろいろなまとめや統計、評価等たてこんでいます。またインフルエンザ、その他の感染症で来室者も多いです。12月ぐらいに配布してもらって、しめ切りも余裕があった方が提出校が増えるかもしれません。(小学校)
- ・冬休み前に配布され、3月上旬に回収ですと、解答に余裕ができます。(小学校)
- ・毎年このような統計をとられるのであれば、「C4th」というソフトに1番目の問いの対象数がわかる項目を組み込んでもらえるよう県へ依頼してほしい。大規模校である本校は手作業で洗い出し、大変だった。(中学校)
- ・調査で実態を明らかにしていただきたい。1番力の弱い子供たちの精神面が健やかに成長することができるのか、まだまだ見えない深刻な影響が出てくるのではないかと不安です。マスクについても、様々な弊害があると感じています。(中学校)

歯科受診と健康教育

- ・歯科の受診について、う歯(+)と判断されてもそのままになっているケースやう歯はなくても定期受診のすすめで文書を出してもそのままのケースが目立ち、この点についてどうしたらいいかと悩んでいます。最終的に病院へ連れていくのは保護者になりますが、児童生徒・保護者に対して健康教育の充実、早期治療、早期発見の重要性を伝えるなど小さなことから根気強くしていくことが求められるのかなあ…と思う日々です。(特別支援)

食物アレルギー管理の悩み

- ・食物アレルギーの管理を保護者がお願いされるが、生活管理指導票を提出して頂いたら、整形外科の先生が書いたものを提出され、小麦・牛乳をひかえるよう書かれてあった。現在牛乳、パンだけひかえていた(昨年まで食物アレルギーにはかかれてなかったため)。今年度は食物アレルギーの一覧に書かれて管理必要とあるがどこまで管理が必要?と悩んでしまうのでアドバイス頂けるとたすかります。厳密にするとどん、スパゲティもと思うのですが?もし万が一のこと考えて保護者意向で決定していいものか?学校はOKというわけにはいきませんが…。(小学校)

調査票記入にあたってのコメント、その他

- ・眼科と耳鼻科は内科検診時に含まれています。(小学校)
- ・歯科検診口腔(要受診0人)むし歯3人、視力検査B以下27人。(中学校)
- ・歯科検診、視力検査の結果・報告書は配布していますが受診されても、結果報告を学校に提出されない児童生徒もいますので、人数を把握できない人もいます。(小学校)
- ・各学年ごとに1日検診日を設けるため複数月となる。(中学校)
- ・受診した児童生徒数は、受診結果報告書が提出された数です(受診しても報告書を提出していない生徒もいると思います)。(中学校)
- ・検査(例えば検尿や)、受診報告などの書類提出状況がよくないです。指導して、提出する場合がありますが、受診しているのか、していないのかわからない(確認できない)ことも多いです。(高校)
- ・検診の御協力いつもありがとうございます。(高校)

学校健診後治療調査票

記入日 年 月 日

長崎県()市()郡()町

校種：国立小学校 公立小学校 私立小学校 国立中学校 公立中学校
私立中学校 国立高校 公立高校 私立高校 特別支援学校

1. 2022年度の貴校の健診で「健診・検査を受けた児童・生徒数」とその内「受診が必要と診断された児童・生徒数」、「要受診と診断され医療機関を受診した児童・生徒数」を教えてください。

	健診実施月	未実施は☑してください	健診・検査を受けた児童・生徒数	要受診と診断された児童・生徒数	医療機関を受診した児童・生徒数
歯科健診	月		人	人	人
眼科健診	月		人	人	人
視力検査	月		人	人	人
耳鼻科健診	月		人	人	人
聴力検査	月		人	人	人
内科健診	月		人	人	人

※健診実施月が複数月にわたる場合、その旨記載ください。定時制・通信制・分校室での結果についてもご記入ください。

2. 2022年度の貴校の歯科健診で、口腔内が崩壊状態（むし歯（未処置歯）が10本以上ある、歯の根しか残っていないような未処置歯が何本もあるなど、咀嚼が困難な状態）と見られる児童・生徒がいましたか。いた場合は、人数もご記入ください。

いた()人 いなかった

※「いた」場合は、下記から選択してください（複数回答可）。それ以外のケースがある場合は具体的にお書きください。不明な場合は、無記入で構いません。

むし歯が10本以上ある 歯の根しか残っていないような未処置歯が何本もある
咀嚼が困難な状態 その他()

具体的にご記入ください。

(裏面もご活用ください)

3. 2022年度の貴校の眼科健診・視力検査で、要受診と判定されたにも関わらず未受診の児童・生徒の学校での困難事例がありましたか。ありの場合、人数もご記入ください。

あり()人 なし

※「あり」の場合は、下記から選択してください（複数回答可）。それ以外のケースがある場合は具体的にお書きください。不明な場合は、無記入で構いません。

視力低下の児童・生徒が多くて座席配慮に困る メガネが壊れたままなのに修理していない
その他()

具体的にご記入ください。

(裏面もご活用ください)

4. 2022年度の貴校の耳鼻科健診・聴力検査で、要受診と判定されたにも関わらず未受診の児童・生徒の学校での困難事例がありましたか。ありの場合、人数もご記入ください。

あり()人 なし

※「あり」の場合は、下記から選択してください（複数回答可）。それ以外のケースがある場合は具体的にお書きください。不明な場合は、無記入で構いません。

中耳炎を放置して耳垂れがひどい 聴力低下を放置して授業についていけなくなった
その他()

具体的にご記入ください。

(裏面もご活用ください)

新型コロナウイルス感染症拡大後のこどもたちの健康状況
2023「学校健診後治療調査」報告書

発行 2023年6月30日

発行人 長崎県保険医協会

長崎市恵美須町2-3フコク生命ビル2F

TEL 095-825-3829

FAX 095-825-3893

<https://www.vidro.gr.jp/>

